



8月から署名活動に腰をすえて!

チラシ配布にも重点をおきます

本会は、毎月第一日曜日に学園地区のクレオ前と中央図書館アルス前で署名行動を行ってきました。

けれども、つくば全体に「憲法9条を変えない」という声を上げていくためには、一つの地区を通りかかる人々から署名をいただいているだけでは限界があります。

私たちが日ごろから周囲の知り合いやお友達に語りかけることも大切ですが、それも連鎖的に広がっていくような勢いにならない限り、狭い枠の範囲にとどまってしまう。

本当の意味で市民の運動として大きく広げていくためには、これまでの枠から出ていく活動が必要です。そのために、世話人会では市内各地域に出向いての署名活動計画を温めてきました。春以降、ある意味で諸イベントに追われるような状況だったため、温め過ぎて暑い季節になってしまいましたが、いよいよ出前署名を開始することに致しました。

なお、各地域で人通りの多い街頭での活動場所を求めても、あまり効率のよい活動はできないおそれがあります。ですから、署名集めと並行してチラシの各戸配布にも重点をおこうと考えています。

とはいえ、これまで行ってきた中心街での街頭署名活動だけでも毎月一回続けるのはなかなか骨の折れることでした。該当する地域に近い賛同人の皆様や、そうでない皆様にも、さらなるご協力をお願いしたいと思います。また、本会と主旨を同じくする地域や職場の会にも参加を呼びかけたいと考えています。

筑波地区にお住まいの皆様

こんにちは!

「憲法9条の会つくば」は、8月から何回か、まずは北条地区など筑波地域にお伺いして「憲法9条を変えないことを求める署名」と憲法を変えるための「国民投票法案」に反対する署名に、ご協力をお願いすることにしました。

地域での署名活動にご協力いただける方は、右記の集合場所・時刻にお集まりください。チラシの配布専門の方もお手伝いいただけると助かります。

これまでと同じようにクレオ前とアルス前でも署名活動を行います。

秋の臨時国会は、「教育基本法改定法案」や改憲のための手続き法案である「国民投票法案」の制定、「共謀罪法案」などの反動法案が目白押しです。

私たちは、将来をにう子供たちの教育が「教育基本法の改定」によって愛国心を強要し、国策に従順な人間をつくり、「海外で戦争をする国づくり」に協力する人間に育てほしくないと考えています。

日本の未来に関わる「憲法改定」など憲法の成立を許さないために署名活動にご協力ください。(署名担当)

8月定例 街頭署名活動

学園地区:アルス前集合 11時半
筑波地区:筑波支所集合 12:15

コンテンツ

- ◇(2面の内容)
- ◇特集・ピースコンサート・つくば母親大会で平和の分科会を担当して・(松岡功二)
- ◇映画「リトルバード」上映会・綿井健陽監督講演会を実施して・(長田満江)

「ピースコンサートつくば2006」を終えて

実行委員長 堀部 一寿

7月9日、市民ホールやたべにおきまして「憲法9条の会つくば」共催の「ピースコンサートつくば2006」が約230人の出演者と約1000人の観客を集め盛大に行われました。

まだ馴染みの薄いゴスペルのコンサートという事で、チケット売りなど初めは皆さん苦勞されたようですが、『9条を守る、平和を訴えるコンサート』だからと、一生懸命お誘いいただき、当日の満席の入りにつなげることが出来ました。

9条の会からも多くのメンバーが「ピース合唱団」に加わり、平和のメッセージを歌いました。9条の会関係者や出演メンバーのお友達などからは、「ピース合唱団」の歌った曲が『一番心に響いた』とか

『涙が出た』という声を多く頂いたと聞いています。「ピース合唱団」のメンバーにも、まだ9条の会の賛同人でない方もいますが、皆さんで同じ気持ちでステージに立ったので、これから賛同人に加わって頂けるよう呼びかけます。また、これっきりで是不够的なので、今後も会関係のイベントに出演できるよう、新たなレパートリーも開拓しつつ、歌を通して平和を訴えていけたらと思います。

ゴスペルの「コーロリニコ」のメンバーや、VOJAなどのゴスペルが目当だったお客さんたちも、「9条」に関心をもち始めています。だからすぐ賛同人に、ともいきませんが、こういうコンサートへの出演について拒否反応を示す方もいるかと思いましたが、私の知る限りでは、ほんの数名だけでした。憧れの亀淵友香さん、VOJAやBBVの皆さんも

一井一ト一ト一井一ト一

平和のために真剣に取り組んでいることを知り、少なからず影響を受けています。

運営面などでは、実行委員長として至らぬ点も多く、皆さんには必要以上にご苦勞、ご心配をお掛けしましたが、反省を踏まえ、今後の活動につなげていきたいと思ひます。また近い将来、今回のコンサートを契機に「若者が活躍する9条の会」を目指せたらと思っています。

今回のコンサートに携わってくださった皆様、お越し頂いた皆様、誠にありがとうございました。

7月15日現在

- ◆賛同人 485名
- ◆9条署名 1,311筆
- (・-・) v
- ♪♪♪♪♪♪♪

2面に“ピースコン”特集



ピースエッグは夏休み

活動予定

- 8月6日(日)「定例街頭署名活動」
11時半～午後2時
中央公園『アルス』前集合
12:15 筑波支所前に直行もOKです。
- 8月20日(日)「定例世話人会」
10時～ 並木公民館(予定)
設立一周年のつどいを考えます。

発行 「憲法9条の会つくば」
〒305-0005
つくば市天久保1-10-12 1-401
電話 090-3811-3753 fax029-856-2286
<http://peace.arrow.jp/tsukuba/index.html>
郵便振込み口座: 番号 00140-7-535453
加入者名 武田照子

戦争を思う 平和を思う

基太村 洋子

戦争のために、私よりもっともっと過酷な苦しみをなされた人が沢山いらっしゃいます。けれども、今の日本の状況を見ていると、語れることはなんでも語り、そして語り継いでいってほしいと思わないでいられません。

皆様は3月10日の東京大空襲はご存じでしょうね。一晩で10万人の方が下町で亡くなりました。10万人です。

その2ヶ月後、私は池袋駅東口、西武前の広場の防空壕に一晩居りました。小学5年の弟が宮城県に学童疎開するので、父、母、妹と上野駅まで見送りに行った帰りに山の手の大空襲に遭ったのです。

どれだけ時間がたったか、警備団の人が来て、ここは危ないから、別の壕に移ってください、と指示しました。順に何人か出た後に私、あとから妹と母がでました。私が出たとき、正面に真っ赤に焼けて柱だけの二階建てが見えました。続いて出た妹はその柱が崩れ落ちるのを見ました。8歳の妹は腰を抜かしたというのでしょうか、歩けなくなってしまいました。母が抱いて、だいぶ離れた別の壕に、地面に残った赤い焼けぼつくりをさけながら、よたよたと一生懸命走って移

りました。現在あるサンシャインの方向から駅に向かってB29の編隊が飛んで来ます。沢山の焼夷弾が空中に見えました。母と一緒に脇見が出来たのだと思います。

それから、毎晩のように空襲警報がなりました。1945年の8月15日、終戦の日。家に帰って思いました。どうして大人の人達はこんな戦争をしたのだろうと。もう絶対にこんな馬鹿げた真似は再びしないだろうと思ひました。若しも、もしかして繰り返すようなことがあったら、よっぽど人間というものは愚かだと思ひました。私は人間は賢いと思ひましたから、絶対に再びしないと信じた。

秋、焼け野原のあちこちに咲いたコスモスの花、それを透かして見た空の青さを私は今でも忘れません。15歳の私は、自然に、握りこぶしの右手を青空にむかって高く上げていました。

「私はきっと、来年も、そして再来年も、この空の下で生きているのだわ。私には未来があるのだわ」と青空に向かって手を振ったことを覚えています。そしてふと、それまで「私自身に未来があると思ひていなかった」ことに気づいたのでした。「私はあなたの人権を大切にしましょう。だからあなたは私の人権を大切にしてください。と言ひましょう。」私が小学生で学んだ言葉です。なのに、戦争は人権を大切にしませんでした。

特集・ピースコンサート

初めての「ニスベル」、感動も一入り

世の中にこんなにも心にもろに染み渡ってくるコーラスがあるうとは。ゴスペル音楽なんてただ清らかな

至らぬ点もありましたが

私は実行委員ながら、当日は自身歌うことで精一杯で、役割を十分に果たせなかったのが反省点です。当日の運営に約50名の方が協力して下さいました。駐車場案内や会場、受付、展示、保育、販売等々、暑い中コンサートを楽しむ時間もなく、成功のために奮闘して下さいました皆様には、何とお礼を申し上げたい。大音響に違和感をもった方がいらつしやうと聞きました。運営上何かと不十分が目につき、大変ご迷惑をおかけしたと思います。いろいろ困難・苦労はありましたが、それ以上に得られた感動は大きく、それらを今後の糧として前向きに進んで行きたいと思っています。(佐藤良子)

教会音楽とばかり思っていたのは全くの間違い。おまけに開催日をも間違えたこの昭和9年生れはあの前日にも会場まで急いだのでした。年は取りたくないものですね。こんな素晴らしい音楽があるのならもつとつと長生きしたい。会場運営も駐車場管理も好感。亀淵先生と九条の会に感謝。(中園和年)

歌った、元気が出た

私は千人もの会場の人たちの前で平和への思いを歌で表現できて大変満足しています。「私を褒めてください」を歌った時、会場からも自然と拍手がおきてその一体感が何とも感動的でした。その感動をかみしめながら歌いました。すばらしい経験をさせていただいた堀部さんをはじめとする実行委員会の皆さんに感謝します。(梅田一徳)

感動一杯の「コンサート」でした

実行委員会に参加し、ピース合唱団にも参加させてもらいました。前日になっても曲を覚えきれず悩みましたが、周りに押されて踏み切りました。当日午前、リハールサルで亀淵さんとVOJAの皆さん、他の合唱団の皆さんとお会いし、そのエネルギーに感動しました。そして本番、満席の会場と出演者が一体となり、盛り上がりは頂点へ。亀淵さんが「私も音楽者9条の会に入っています。平和のため憲法9条を守ることが大切！」とメッセージを発信されました。お誘いした友人、看板作製に協力してくれた人、花束を届けてくれた人、はたまた、帰り際に「良かったよ」と駆け寄って来てくれた人等々、感動の連続でした。コンサート成功おめでとう！出演者、企画運営に係わった人、観客の皆さん、すべての人々に感謝！(武田照子)

筑波大の学生さんと若狭学園高校生が会場ロービーに、「今、ここに」と題して、広島・長崎の原爆の資料や現在の核の数、平和を願う絵と絵本を展示し、「過去を学び、現在を知り、未来を思う」というメッセージを発信してくれました。彼らの「思い」を伝えます。

□いろいろな自分がいます。ある瞬間、何でも戦争に結びつける自分。今が楽しかったらいい自分。誰かを大事にしたい自分。自分がわからない自分。自分なりの答えをいろんな自分で探しています。(伊藤菜々)

□心から平和を願う人には、そこに至るまでの『道』があります。私は今、自分の『道』を進んでいます。だから私は、世界平和を！と訴える事に無理を感じ、苦しくなってしまうのだと思います。(瀬山彰)

□絵というのは難しく、光を表現するには影を描かねばなりません。同じように、平和を思うためには戦争の恐ろしさを知ること、未来を思うためには過去を学ぶことが必要だと思っています。(林孝輔)

□ヒロシマをきっかけに展示会を行い、ヒロシマをきっかけに戦争・平和について考えた。一つのきっかけは、自分の世界を広げるチャンスなのではないか。これからはきつかけを大切に生きていきたい。(大濱道徳)

□核、平和、世界のこと…一部の真面目な人達だけが取り組んでいるイメージ。でも、同年代のコも普通に行動していた。そんなことを普通と感じる人の輪が広がっていけば、何かが変わるんじゃないでしょうか。(富永紗代)

□私は広島出身ですが、大学にきて広島を離れてみて、改めて広島のことを考えるようになりました。この展示を通じてみんなとつながることを考えることができてとてもよかったです。(富田美智子)

□中3の時、広島で被爆者の方から、ドームやその周辺の原爆で破壊された様子や、殺された人々で埋まった川の様子をお聞きし、なんて悲惨な、あつてはならないことと思った。その当時のドーム周辺を絵にすることで、私が感じた思いを伝えられたらと思います。(小宮美文)

編集後記

どこか平年と違った暑い梅雨。折りしも、北朝鮮のミサイル発射で自衛隊が政府与党に頭在化してきました。

日米政府の奮闘？で国連安保理は北朝鮮非難決議を採決しましたが、先制攻撃は非難されないと思っっているのか。他国をミサイル攻撃している米国や核実験をしている中国、ロシアはどうなのか。他国を非難して見せても、泥棒の説教同様で、合点がいきません。戦争は常に正義の名のもとに行われてきました。隣国脅威を口実に、この国の軍国化を企図する与党やメディアの論調に惑わされないよう、眼と耳を研ぎ澄ませましょう。梅雨の暗雲を振り払う思いで。(樋)

9条情報玉手箱

朗読劇 この子たちの夏 1945 ヒロシマナガサキ

とき：8月6日(日)13時30分開場、14時開演
ところ：アルスホール(つくば市中央図書館2階)
入場無料
主催：サラダの会朗読グループ、協力：地人会
問い合わせ：サラダの会 029-887-3226 大曾根、ほか

三浦綾子・原作『銃口』 前進座75周年記念公演

とき：8月13日(日)13時30分開場、14時開演
ところ：浅草公会堂
参加費：A席5500円 B席3000円
問い合わせ：0422-49-2633 前進座全国事務所

白バラの祈り ゴッティ・ショル、最後の日々

とき：9月9日(土)14時、18時半(2回上映、約2時間)
ところ：つくば・ノバホール
前売券：1000円、学生・シニア800円、小中学生無料
問い合わせ：上映実行委員会 090-4074-4964 (野崎)

つくば市母親大会「平和の分科会」を担当して

松岡 功二

「第26回つくば市母親大会」の平和分科会を9条の会が担当することになり、一緒に分科会を創ろうと伊藤さんに誘われた。第2子誕生を期に子育てにとりくむ「育休父さん」の僕が、「生命を生み出す母親は・・・」がスローガンの大会に出席するっていうのも悪くない巡り合わせかなと思い、初めて参加させていただいた。

全体の参加者は300名を超えるなか、平和分科会には担当者含め17名程度とやや寂しい気もしたけれど、戦争体験者の話や、暮らしのなかでの憲法を生かそうと活動している人達の話が聞けることができたのはとても貴重な場だった。人間魚雷の訓練を受けた話、池袋で空襲に遭った話、台湾での空爆体験など、体験者から直接話をきくと、戦争がどのようなもので、戦争体験者は60年間どのような思いで生きてきたのかを現実感を伴いながら想像することができ、胸に迫るものを感じた。

惰性とは恐ろしいもので、職場や家庭での狭い人間関係に身を委ねて暮らしていると、この国には戦争を体験した人達が身近にいる、という当たり前のことを置き去りにしていても平気でいられるようになるようだ。そういう自分があることに気付いてずいぶん驚いた。一方で、9.11以降、日本もはや戦後じゃない、戦前、あるいは戦中と呼ばれる時代に突入しているのではと暗い気分だった僕は、できることから何かを始めている人達の存在に勇気づけられた。光が見えた、とまではいかないけれど、光を放つための熱を高めようという気にはなったと思う。まず惰性から抜け出すために立ち止まる勇気をもつことかな。きっかけをくれた伊藤さんはじめ9条の会のみなさんに感謝します。

映画「リトルバース」上映会・綿井健陽監督講演会

6月18日、筑波学院大学で開催された上映会・講演会には延べ約180人が参加した。映画「リトルバース」は、サブタイトルの「イラク 戦火の家族たち」が示しているように、2003年3月以降のアメリカによるイラク侵攻の実態を、イラク人の目線で撮ったドキュメンタリーである。空爆で3人の子どもを奪われた父親、クラスター爆弾で右目に傷を負った少女を主人公に、戦火の中で懸命に生きる家族たちを丹念に描き上げながら、戦争の「無意味さ」を問いかける。

綿井監督をこの映画撮影に駆り立てたのは、米軍の戦車の前に立ちただけ「何人の子どもを殺したんだ？病院へ行って、死んでゆく人たちを見て来い」と叫ぶ1人の女性(「人間の盾」メンバー)の声に突き動かされ、バグダッド市内の病院で凄惨な状況を目撃したことにあつたという。

映画にはナレーションや音楽は一切入っていない。あるのは映像と現場の音だけ。イラクで何が起きているのか。市井の民間人の家が次々破壊され、そこに住む人々が何を感じたのか、圧倒的な力で迫ってくる。

空爆をしているのは米軍だ。しかし、日本はその米軍を支援している。日本は、はっきりと「加害者」の立場を取っているのだ。

今年3月、1年ぶりにバグダッドを訪問した監督は、「イラクの中では“ブッシュとお前ら日本人がイラク人を殺した”という人が増えた」「殺しながら助けているのが日本の立場だ」と述べていた。

7月、サマワから自衛隊の撤退が始まった。政府は「イラクでの自衛隊派遣の実績」を根拠に、次の自衛隊海外派遣を模索している。そして、その先にあるのは、現実を迫認する必要があるとして、憲法9条の改変そのものへの道であろう。(文責：長田満江)